

## 平成18年度 第3回津波災害の軽減方策に関する研究委員会議事録

日 時：平成19年3月15日（木） 13時30分～17時00分

場 所：建築会館308会議室

出席者：奥田，小路，藤間，松富（敬称略）

議題1. 平成18年度 第2回委員会議事録（案）について（資料3-1）

議事録（案）を承認した。

議題2. 報 告

■予算の執行状況について（資料3-2）

- ・資料3-2に基づいて，松富委員から，各研究委員会の予算執行状況の説明があった。
- ・本委員会では予算がまだ残っており，執行予定がある委員は委員長と相談することとした。

■その他

なし。

議題3. 平成18年度の活動と平成19年度の活動計画について（資料3-3）

- ・研究統括委員会に提出する「平成18年度委員会活動報告」と「平成19年度委員会活動計画案」について，資料3-3に基づいて松富委員から説明があり，資料案を了承した。
- ・本委員会活動の成果報告会として日本地震工学会年会を利用し，セッションまたは研究討論会形式で開催することとした。
- ・本委員会活動の成果を「報告書」として作成することとした。
- ・報告書の目次案を委員長が作成し，次回委員会でその案を検討することとした。
- ・平成19年度委員会活動として，社会貢献のため，津波災害発生時には「緊急現地調査」を実施することもあるとした。

議題4. 話題提供1

■松富委員 秋田大学

題目：漂流物を伴う氾濫流の実験と植生域氾濫流の数値計算法について

- ・水理実験を行い，漂流物を伴う氾濫流先端部における漂流物の塞き止め現象を理解・モデル化し，実験との比較を通してモデル理論の有用性と対象氾濫流の基本特性を論じた。
- ・植生域や住宅域などに適用可能な氾濫流基礎式に基づく平面二次元数値解析法の開発を行い，植生域氾濫流の実験値と計算値の比較を通して，開発した解析法の有用性を論じた。

## 議題 5. 話題提供 2

### ■奥田委員 建築研究所

題目：開口部をもつ建築物に作用する津波荷重について

- ・ 建築物などがある場での風の数値解析で用いられてきた 3 次元解析法を，建築物がある場での津波の 3 次元氾濫計算へ適用した研究成果が発表された。
- ・ 窓や戸などは容易に壊れるとして，建築物及び建築物内の 3 次元構造を考慮した数値解析例が示された。
- ・ 試算の入射氾濫水深としてどのくらいが適当か，などが議論された。

## 議題 6. その他

- ・ 平成 19 年度の委員会でも各委員や外部研究者の興味等を共有し，委員会成果を充実させるため，話題提供の機会を設けることとした。
- ・ 次回開催は 8 月頃を予定。

文責 松富